たうんとぴっくす

まちの話題や出来事を紹介します

このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック（FB）」で公開しています。

◀水平になることと、足が重いことを意識して水に浮かびます。

SS 安来が 30 周年の記念祭

スミングスクール安来が 30 周年を迎えることから 9 月 15 日、市民プールで記念祭を行いました。開校はプールが完成した平成元年。これまでの感謝を込めて、会場にはゲームコーナーや水鉄砲での的打ちなどさまざまな催しが用意され、多くの人で賑わっていました。

プールで行われた特別企画「ういてまて（浮いて待て）」教室には 39 人が参加。一般社団法人水難学会の指導員から「水難事故の 8 割が服を着たままです。浮かんで助けを待つことが大切です」という話を聞いたあと、実際に水中で着衣のまま浮かぶコツなどを学んでいました。

平和のつどいで司会を務めた広瀬中学校の 3 人。素敵な声でスムーズに進行をしてくれました。大役を終えるとほっとした笑顔の表情に。（9 月 21 日）

今月の一枚

◀撮影の様子と千田先生。今回の収録は、BS プレミアム「英雄たちの選択」で放送されました。

千田嘉博先生が富田城を訪問

テレビ番組の撮影のため、城郭考古学で知られる千田嘉博先生（奈良大学教授）が、8 月下旬に月山富田城跡を訪問しました。撮影中には城内を隈なく巡り、2 日連続で登頂。さらに、毛利軍が築城した勝山城跡にも足を運ばれました。

撮影の合間に月山富田城の感想を聞いたところ、「今回、20 年ぶりに富田城を訪れましたが、整備が進んで守りの規模などがよく分かり、山城の姿に迫力を感じました。石垣や曲輪（くるわ）の形など、誰にでも分かりやすくなっているので、皆さんに体験してほしいですね」と話していました。

また、城内でとくに気に入った点については、「①さまざまな時代の石垣を見ることができる。②地形を巧みに生かした土の城の部分が手に取るようにわかる。③何と言っても三の丸からの眺め。戦国時代には山に城があり、谷に城下町が広がることが一望できること。」を挙げ、歴史を感じさせるこの景色を評価していました。

◀人形の動きを確認しながら操作をする児童。

伝統芸能の人形操る

日本の伝統芸能に触れ、関心をもってもらおうと、9月27日、十神小学校6年生を対象に「人形浄瑠璃体験ワークショップ」が同校で行われました。

児童は、物語の冒頭部分を観覧した後、実際に物語を読み、三人一組で人形操作を体験。3人で息を合わせての操作に苦戦しながらも、おじぎや座る動作が上手くいくと拍手が起こりました。

参加した白石すみれさんは「人形は重くて動かすのが難しかった。この人形で細かい動きを表現しているのはすごいと思いました」と話していました。

安来から願う世界平和

平和への意識を絶やさず、思いを広げていくため「平和のつどい」を9月21日、布部ふれあい体育館などで開催しました。当日は、市内外から寄せられた2500個のあんどんを並べ、平和への願いを込めました。メッセージや絵が描かれたあんどんは、多くの人が見入っていました。

また、5回目の開催となった今年は、劇団「幻影舞台」が加納莞蕾（かんらい）の人生を描いた演劇を披露。劇には布部小学校の児童も出演し、莞蕾が生涯にわたって貫いた思いが伝わるよう真剣に演じていました。

◀ラストのシーンは手拍子の中、歌を歌って終わりました。

▶微生物のいる土をプレパラートに移す生徒たち。

暮らしに役立つ微生物を観察

給食の食べ残しなどをリサイクルする仕組みを知ってもらおうと9月25日、広瀬小学校で出前授業を行いました。

授業を受けたのは同校の5年生34人。講師のアサヒカルピスウェルネス㈱の研究員と楽しい㈱の職員から、生ゴミを堆肥に変える仕組みや微生物の働きなどを学びました。

この日はさまざまな微生物が用意され、電子顕微鏡で実際に観察。種類ごとに大きさや形が異なることを自分の目で確かめました。

市給食センターでは、調理の際に出る野菜くずや食べ残しを堆肥化してリサイクルを進めています。

身近な環境問題を考えよう

地球温暖化などの環境問題について考えようと、9月8日に和鋼博物館で「やすぎ環境フェア」を開催しました。この日は温暖化を象徴するような猛暑。それでも会場内に設けた協賛企業の出展ブースや、ものづくりの体験コーナーなどには、多くの家族連れが訪れていました。

エコ工作コーナーには、端材などを使ったストラップづくりがあり、イチゴの形に挑戦した高田優奈さん（小学2年）は「小さな葉をボンドでつけるのが難しかったけど、可愛くできました。サイフに着けようかな」と話していました。

▲エコ工作に挑戦する参加者。